2026 年 11 月 20 日
滋賀県

●城密度は日本一級！まさに城の標本箱！●

実は滋賀には、1,300 を超える城がある！

日本の城の進化と、戦国から幕末までの歴史をまとめて学べる

滋賀の城めぐり

滋賀県には、実は 1,300 を超える城があります。

国宝・彦根城や織田信長の安土城はもちろん、山の尾根に築かれた中世の山城、琵琶湖の水運を押さえた水城、城下町とともに発展した近世の城まで、その姿も役割も実に多彩です。滋賀は、さながら「あらゆる時代の城の標本箱」なのです。

今回は、戦国時代から江戸時代、幕末に至るまでの「滋賀の城」に注目しました。日本の城の進化と、戦国から幕末までの歴史をまとめて学べるのも滋賀ならでは。いつの世も時代の鍵を握っていた「滋賀の城」の魅力を探ります。

＜目次＞　日本の城の進化と、戦国から幕末までの歴史をまとめて学べる　滋賀の城めぐり

なぜ 1,300 超の城がある？滋賀は城の進化の「標本箱」

戦国武将がひしめく近江　山上に巨石を積み上げた堅牢な山城たち
信長の安土城以前からすごかった近江の城
- 観音寺城　安土城に先んじてつくられた、壮大な石垣を築いた「日本五大山城」の一つ
- 小谷城　浅井氏滅亡により信長の天下統一が前進、歴史の転換点となった
【コラム】近江が育てた石工集団「穴太(あのう)衆」

近世の城郭の成立を考えるうえでは欠かせない城
戦国を統べる象徴であり、城の歴史を変えた城
- 安土城　戦う城から、天下人の権力と威信を示す城へ
【コラム】復元した安土城を体感できるアプリ「安土城」

織田信長の天下布武の夢を受け、豊臣秀吉が天下一統を成しえるまで
本能寺の変後、秀吉は近江をどう支配したのか
- 坂本城　安土城より早く天守を備えた、光秀の水城
- 八幡山城　城は消えても、近江商人を生み育てたまちが残った
- 水口岡山城　東海道を押さえ、豊臣政権の近江支配を担った城

豊臣秀吉から徳川家康へ。秀吉亡き後、関ヶ原の戦いへのカウントダウンが始まる
豊臣の世が終わりを告げるときに立ち会った城
- 大津城　関ヶ原と同じ日に決着した、もう一つの「滋賀の天下分け目の合戦」
- 佐和山城　石田三成の居城が物語る、豊臣から徳川への転換

関ヶ原の戦いから徳川幕府開幕へ、そして、幕末安政の大獄から大政奉還まで
徳川とともに、江戸の 260 余年のときを刻んだ城
- 彦根城　豊臣・三成の佐和山からわずか約 2km に、徳川・井伊の城が誕生

なぜ 1,300 超の城がある？滋賀は城の進化の「標本箱」



●守護大名や武将だけでなく、地域有力者、寺社勢力、村人までもが城を築いた

なぜ滋賀には、これほど多くの城が築かれたのでしょうか。

その理由は、近江が古くから交通と物流の要衝だったことにあります。都・京都に隣接し、東海道や中山道、北陸へ通じる街道が交わり、琵琶湖は人や物資を運ぶ水上交通の大動脈。近江を押さえることは、都への道と経済活動の要を握ることでした。そのため、この地では守護大名や戦国武将だけでなく、地域の有力者、寺社勢力、さらには村人たちまでが、それぞれの領地や暮らしを守るために城を築きました。

滋賀県の城跡は約 1,300 カ所。単位面積当たりの城の密度は全国一といわれ、築城した人々の多様さも大きな特徴です。

戦国武将がひしめく近江　山上に巨石を積み上げた堅牢な山城たち

信長の安土城以前からすごかった近江の城

観音寺城　＜国指定史跡＞　近江八幡市安土町石寺

●安土城に先んじてつくられた、壮大な石垣を築いた「日本五大山城（※）」の一つ

織田信長が安土城を築く以前、近江にはすでに大規模な石垣を備えた城がありました。その一つが近江守護・六角氏の拠点、観音寺城です。安土城の建つ安土山から南東約 2 ㎞に位置する標高 432m の繖山（きぬがさやま）に築かれ、山頂から南斜面に多くの曲輪が広がる全国屈指の山城で、「日本五大山城」の一つとされています。


繖山（標高 432m）。現在、麓には安土城考古博物館や安土城天主信長の館が建つ

現在見られるような石垣を多用した姿に整えられたのは、16 世紀中ごろと考えられています。城内には伝本丸、伝平井丸、伝池田丸などがあり、巨石を積み上げた石垣や虎口が見どころです。発掘調査では茶器や中国産陶磁器が出土し、1544 年に城を訪れた連歌師・谷宗牧の記録にも、茶を楽しむ座敷の様子が登場します。戦いに備える要塞でありながら、武家文化が花開く生活の場でもありました。


中枢部には、巨石を積み上げた石垣が並ぶ

1568 年、信長の近江侵攻によって六角氏が退去し、城はその役割を終えていきました。安土城以前の石垣の技術と、戦国大名の暮らしを同時に感じられる城跡です。

※日本五大山城とは？

戦国時代を代表する大規模な山城として、一般的にあげられている 5 つの山城の総称です。国や公的機関が統一的な基準で選定したものではなく、通称として用いられている呼び名です。

●春日山城（上杉氏の居城／新潟県上越市）●月山富田城（尼子氏の本拠地／島根県安来市）●観音寺城（六角氏の居城／滋賀県近江八幡市）●小谷城（浅井氏の居城／滋賀県長浜市）●七尾城（畠山氏の居城／石川県七尾市）

小谷城　＜国指定史跡＞　長浜市小谷郡上町、湖北町伊部


小谷山全景


山頂にかけて石垣や曲輪が連なる（大広間跡）

●浅井氏滅亡により信長の天下統一が前進、歴史の転換点となった

小谷城は、北近江を治めた浅井氏三代の居城です。こちらも日本五大山城の一つで、1525 年ごろ、初代の浅井亮政が標高約 495m の小谷山に築いたとされます。山麓の清水谷から中腹、山頂にかけて石垣、堀切、土塁や曲輪が連なり、山の地形を巧みに利用した戦国山城の姿をいまに伝えています。

山中には本丸跡、大広間跡、黒金門跡などが残ります。三代目の浅井長政は、織田信長の妹・お市を妻としましたが、信長との対立が深まり、1570 年の姉川の戦いなどを経て、1573 年に小谷城は落城。浅井氏は滅亡しました。

【コラム】

●寺院の石垣から近世城郭の石垣へ。近江が育てた石工集団「穴太衆（あのう）」

自然石を組み合わせた「穴太衆積み」が、近世の城郭石垣の発展を支えた

穴太衆は、現在の大津市坂本の穴太地区を拠点に、戦国時代から江戸時代に活躍した石工集団です。比叡山延暦寺の門前町として栄えた坂本では、古くから寺院の石垣や石段、参道などの整備に石工の技術が必要とされ、穴太の人々もその土木工事を担いました。大小の自然石を巧みに組み合わせる「穴太衆積み」は、戦国時代の城郭建設にも活かされ、安土城をはじめ、近世城郭の石垣づくりに関わったとされています。その後、石垣を備えた城郭が全国に広がるなか、穴太衆も各地の築城に携わり、城郭石垣の発展を支えました。


穴太衆の石積み（盛安寺／大津市）

近世の城郭の成立を考えるうえでは欠かせない城

戦国を統べる象徴であり、城の歴史を変えた城

安土城　＜国指定特別史跡＞　近江八幡市安土町下豊浦 6371


大手門跡

●戦う城から、天下人の権力と威信を示す城へ

安土城は、近世の城郭の成り立ちを考える際には欠かせない城です。1576 年、織田信長は琵琶湖東岸の安土山で築城を開始。それまでの山城とは一線を画す壮大な石垣と高層の天主を備え、軍事拠点から政治と権力を示す象徴へと城郭の在り方を発展させました。

大手門から約 180m にわたって直線的に延びる幅約 8m の大手道は、訪れる人を圧倒します。発掘調査では、石敷きの側溝や石塁、大手口付近の複数の虎口も確認されています。城内には「伝羽柴秀吉邸」や「伝前田利家邸」など、家臣の屋敷と伝わる曲輪が配置され、建物や門などの遺構も見つかっています。


天主跡から琵琶湖方面を望む

地上 6 階・地下 1 階（5 層 7 重）の構造だったとされる天主（天守）は、それまでの日本の城では例をみない本格的なもので、上階は金色で内部の柱には金箔が塗られ、壁画は狩野永徳らが手がけるなど、当時の最高技術と芸術が結集したものでした。1582 年の本能寺の変後、城は焼失し、信長の壮大な構想は短期間で幕を閉じました。しかし、石垣や天主を備えた城郭のあり方は、後の織豊系城郭に大きな影響を及ぼしました。

築城開始 450 年を迎えた 2026 年、滋賀県では「令和の大調査」を進めており、伝二の丸跡や天主台石垣など約 601 ㎡を調査。城の実像を解明する取り組みが続いています。

【コラム】

●復元した安土城を体感できるアプリ「安土城」

CG で安土城を体感。6 つの天主復元案も比較鑑賞できる

滋賀県では、2025 年に復元・体感アプリ「安土城」をリリース。安土城跡内に設けられた 16 カ所のスポットでアプリを起動すると、CG で再現された安土城を 360 度体感できます。また、6 つの天主復元案の比較鑑賞もできます。

さらには、信長とそのゆかりの武将 8 人（織田信長・織田信忠・羽柴秀吉・明智光秀・柴田勝家・丹羽長秀・滝川一益・池田恒興）の 3DCG を制作。大手門前で記念撮影することも。2026 年のアップデートでは、羽柴秀吉と羽柴秀長の AR キャラクターも登場し、記念撮影できる機能が追加されました。



織田信長の天下布武の夢を受け、豊臣秀吉が天下一統を成しえるまで

本能寺の変後、秀吉は近江をどう支配したのか

坂本城　＜国指定史跡＞　坂本城址公園＊大津市下阪本 3 丁目

●安土城より早く天守を備えた、光秀の水城

坂本城は、1571 年の織田信長による比叡山延暦寺の焼き討ち後、信長が明智光秀に命じて、琵琶湖西岸に築かせた城です。湖に突き出すように本丸を構えた水城で、比叡山の監視だけでなく、京都と美濃を結ぶ交通路や、琵琶湖の水運を押さえる重要な拠点でした。また、大津市歴史博物館は、この坂本城は、安土城より早い時期に天守を備えていた城としています。


坂本城三ノ丸石垣
（写真提供／大津市埋蔵文化財調査センター）

1582 年の本能寺の変後、光秀は山崎の戦いで羽柴秀吉に敗れ、坂

本城も焼失しました。その後再建されましたが、存続期間は短く、現在は地上に城の姿をほとんどとどめていません。しかし、湖の渇水時に石垣が姿を現し、2023 年度の発掘調査では石垣や堀などの遺構が確認されました。これらの成果により、2025 年 9 月には国の史跡に指定。2026 年には追加指定に向けた答申も行われました。城郭技術の発展や琵琶湖を利用した政治経済活動を知る重要な城として注目されています。

八幡山城　近江八幡市宮内町

●城は消えても、近江商人を生み育てたまちが残った

八幡山城は、1585 年、豊臣秀吉の甥・秀次が近江 43 万石の領主となり築いた城です。安土城が本能寺の変後に焼失・廃城となり、安土に代わる政治・経済・交通の要衝として築かれました。安土城から西へ約 6 ㎞の地にある標高約 271m の八幡山に本丸、二の丸、北の丸、出丸を設け、山麓には居館や家臣の屋敷を配置しました。


城下にはりめぐらされた琵琶湖に通じる八幡堀

築城と並行して秀次が力を注いだのが城下町の整備です。琵琶湖につながる八幡堀を築き、水運による物資輸送と城の防御を両立。堀を挟んで武家地と町人地を分け、碁盤目状の町割りを整えました（旧城下町の町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定）。1586 年の「八幡山下町中掟書」には商工業を保護する政策も見られます。


近江商人の町並み・新町通り

1590 年、秀次は、北条征伐後の徳川家康の関東への移封に伴い、築城わずか 5 年で八幡山城を離れ、家康が治めた尾張・清洲へ。1595 年には八幡山城も廃城となりました。しかし、秀次の築いた楽市楽座、八幡堀、商人・職人の集住政策などの城を中心とした都市計画と商業政策は、後の八幡商人＝近江商人の発展の基盤となりました。

水口岡山城　＜国指定史跡＞　甲賀市水口町水口

●東海道を押さえ、豊臣政権の近江支配を担った城

水口岡山城は、1585 年、豊臣秀吉の命を受けた中村一氏が、現在の甲賀市水口町にある古城山に築きました。眼下には東海道が東西に走り、同時に鈴鹿越えの道も押さえる交通の要衝です。中村一氏の後には、豊臣政権で奉行を務めた増田長盛、長束正家が城主となり、甲賀支配と東国への備えを担う拠点となりました。


本丸跡

城には石垣や礎石建物、瓦葺きの建物が設けられ、発掘調査では石垣や瓦などが確認されています。出土した瓦から、矢川寺（甲賀市甲南町）や大溝城（高島市）から建築資材を移したという文献の記述が裏付けられ、築城に際しては既存の建物や資材を再利用した実態を知る貴重な手がかりとなっています。この城は、関ヶ原の戦い後に廃城となりましたが、遺構の保存状態は良く、2017 年に国の史跡に指定され、2025 年には保存活用計画も策定されています。

豊臣秀吉から徳川家康へ。秀吉亡き後、関ヶ原の戦いへのカウントダウンが始まる

豊臣の世が終わりを告げるときに立ち会った城

大津城　石碑＊大津市浜大津 5 丁目 2-29 付近

●関ヶ原と同じ日に決着した、もう一つの「滋賀の天下分け目の合戦」

大津城は、1586 年ごろ、豊臣秀吉の家臣・浅野長吉（長政）により、琵琶湖南岸に築かれました。本丸は、現在の京阪電車浜大津駅から湖岸に向かった周辺にあり、発掘調査では石垣が確認されています。坂本城に代わる拠点として築かれ、京都に近く、琵琶湖の水運を掌握するうえでも重要な城でした。


現在の大津港湖岸・なぎさ公園周辺が本丸跡

歴史の表舞台となったのは 1600 年。城主・京極高次は徳川家康の東軍に味方し、西軍の部隊約 1 万 5000 人の猛攻を浴びます。籠城を続けて開城したのは、関ヶ原で東西両軍が激突した 9 月 15 日。西軍は大津城攻めで足止めされ、関ヶ原本戦にも影響を及ぼしました。

その後廃城となり、部材は彦根城や膳所城築城に利用されたとされています。城の痕跡を訪ねれば、関ヶ原の戦いが近江各地を巻き込んだ戦いだったことがわかります。

佐和山城　彦根市古沢町

●石田三成の居城が物語る、豊臣から徳川への転換

琵琶湖東岸の交通の要衝に位置する佐和山城。戦国時代には、北近江と南近江の境を押さえる城となりました。1570 年の姉川の戦い後には、浅井氏の家臣・磯野員昌が籠城し、織田信長方との攻防を続けます。戦いに勝利した信長は、佐和山城に重臣・丹羽長秀を城主に配し、自身も佐和山城を近江制圧の拠点として活用しました。その後、豊臣秀吉も、堀秀政、堀尾吉晴、そして五奉行筆頭の石田三成を入城させ、佐和山城の存在を重視しています。


西の丸跡

三成が佐和山城主となってからは、山上の曲輪群と山麓の城下を一体とする「佐和山惣構」を整備。五層の天守を構え、鳥居本を大手とする城へと整備されました。山上には本丸以下、二の丸、三の丸、太鼓丸、法華丸などが連なり、山下は東山道に面して大手門が開き、二重に巡らされた堀の内には侍屋敷や足軽屋敷、町屋などの城下町が形成されていました。

1600 年の関ヶ原の戦いの後、徳川政権下では井伊家が入城。ほどなく近隣の彦根山に新城が築かれ、佐和山城は廃城となりました。その際、石垣や建物の多くは彦根城へと運ばれています。現在、天守や櫓は残らず、石垣もわずかですが、彦根市の調査によって城郭遺構の存在が明らかになっています。

関ヶ原の戦いから徳川幕府開幕へ、そして、幕末安政の大獄から大政奉還まで

徳川とともに、江戸の 260 余年のときを刻んだ城

彦根城　＜国指定重要文化財、天守は国宝＞　彦根市金亀町 1-1

●豊臣・三成の佐和山からわずか約 2km に、徳川・井伊の城が誕生

1600 年の関ヶ原の戦いで石田三成が敗れた後、その居城・佐和山城に入城し、近江の支配を任されたのが井伊家です。1602 年に井伊直政が死去。1604 年には徳川家康の命により、佐和山城から約 2km 西の彦根山で彦根城の築城開始。約 20 年をかけて完成した城は、三重の堀と石垣、櫓、門、城下町を備える近世城郭でした。



天秤櫓（国重要文化財）と鐘の丸に架かる深い堀切に架けられた落とし橋。橋が落とされると、敵は高い石垣を登らなければ進めない

築城には、佐和山城の石垣や建物の多くが彦根城に運ばれています。また、1960 年の彦根城天守解体修理時の建築部材調査などからは、天守は大津城天守を移築・転用したものと推測されています。現在も国宝の天守をはじめ、国の重要文化財である天秤櫓や西の丸三重櫓など江戸時代の建造物が残り、城跡全体が国の特別史跡に指定されています。



天守閣（国宝）

時代を下って幕末には、藩主・井伊直弼が幕府大老となり、ペリー来航以降揺らぎ続ける幕府の立て直しに奔走。その中で「安政の大獄」が起きます。幕府とともに 260 余年の時を刻んだ彦根城には、そんな幕末の歴史も垣間見えます。

現在、彦根城は世界文化遺産登録をめざしています。

おわりに

●日本の城の進化と、城を舞台として動いた歴史を一緒に学べる。それが滋賀の城めぐりの楽しみ方

滋賀の城には、日本の城の進化の過程が凝縮されています。中世の山城から、石垣を多用した観音寺城や小谷城、壮大な天主を備えた安土城へ。戦国期には、戦いに備えた防御拠点から、権力を示し政治や経済を動かす拠点へ。さらに豊臣政権下では城下町の整備が進められ、江戸時代には彦根城のような近世の城郭が成立していきます。

滋賀の城めぐりでは、天守や石垣だけでなく、地形を生かした曲輪や堀切、琵琶湖や街道との位置関係、城下町のつくり方などにも注目してみてください。そこに城が築かれた理由や歴史のうねり、そこに息づく人びとの暮らしぶりなども一緒に楽しめます。それが滋賀の城めぐりの大きな魅力です。